

# 第1回 市民動物園会議

## 会 議 録

日 時 : 平成19年8月30日(木) 14:00～  
場 所 : 円山動物園内 動物園プラザ

## 1. 開 会

○金澤園長 それでは、定刻となりましたので、ただいまから第1回市民動物園会議を開催させていただきますと思います。

## 2. あいさつ

○金澤園長 まず、開催に先立ちまして、中村環境局理事からごあいさつをさせていただきます。

○中村環境局理事 皆さん、こんにちは。

札幌市環境局理事の中村でございます。この4月から円山動物園の関係を担当しております。

動物園というと旭山かと言われるのですが、円山は老舗で頑張っております。きょうは、委員の方以外にも多くの方にご出席いただきまして、ありがとうございます。

ご案内のように、昨年、約10カ月かけ、円山動物園のリスタートということでいろいろ議論していただきまして、春に基本構想がまとまりました。これから、多くの方々に円山動物園を楽しんでいただく、そしてまた、環境教育という側面も含めて教育の面でも大いに利用していただく、そのほかにも企業、団体にもいろいろなフィールドとして活用していただくということで貴重なご提言をいただきました。まだ基本構想の段階でありますけれども、既にことしの4月から、動物園の方でもそれを受けて職員一丸となって頑張っております。

私も、以前、財政にいたときには、動物園というと、どちらかというと財政的に重荷というような感じで見えていたこともありますが、数年ぶりに実際の動物園の仕事を担当していると、職員の意識も大きく変わってきておりますし、また、何よりいろいろなことで取り上げていただいて、円山動物園のステータスというものも少なからず上がっているのかなと思っております。

ただ、やはり、いろいろ課題を抱えておりました。現状に甘んじることなく、さらにもっと楽しんでいただく場にしたいですし、もっともっと多くの方に来ていただきたいと考えております。

今回、市民動物園会議ということで、9名の方に委員をお願いいたしましたところ、快くお引き受けいただきましてありがとうございます。改めてお礼を申し上げます

我々は基本構想にのっかって頑張っていきますけれども、先ほど申し上げたとおり、まだまだ足りない面もあります。しっかり基本構想に乗った形で運営されているかどうかと、そういう監視の目はもちろんいただきたいですが、頑張っているときはぜひお褒めの言葉もいただければ、我々も頑張りがいがあるなというふうに思っております。

今回、多様な分野から、オオカミの研究をされている学識経験者の方などいろいろな方がいらっしゃってとても楽しみにしております。委嘱は2年間ということですが、これからどうぞよろしくお願いいたします。

本日は、本当にありがとうございました。

### 3. 委員並びに事務局職員紹介

○金澤園長 それでは、本日は第1回目でもございますので、事務局と各委員の自己紹介をお願いしたいと思います。

最初に、事務局側の職員を紹介させていただきます。

ただいま挨拶していただきましたのは、環境局理事の中村敬臣でございます。

○中村環境局理事 よろしく申し上げます。

○金澤園長 それから、その左隣におりますのは種の保存担当部長の大谷倫子でございます。

○事務局（大谷種の保存担当部長） 大谷でございます。よろしくお願ひいたします

○金澤園長 それから、私の後ろの方には、経営管理課長の鈴木眞でございます。

○事務局（鈴木経営管理部長） 鈴木です。どうぞよろしくお願ひいたします。

○金澤園長 飼育展示課長の渡邊則行でございます。

○事務局（渡邊飼育展示課長） よろしくお願ひいたします。

○金澤園長 そのほか、担当の係長も在席しておりますが、きょうは紹介は省略させていただきます。私が園長の金澤でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

以上が事務局の関係者でございます。今後、連絡等をさせていただいたり、また、園内でお会いしたりすることもございますが、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

続きまして、各委員の紹介に移りますが、自己紹介をお願いしたいと思います。

私の左の森田委員の方から、順次、お願ひできますか。

また、動物園に対する思いがありましたら、ぜひ一緒に、できれば手短にお願ひしたいと思います。

○森田委員 皆さん、初めまして、こんにちは。

札幌青年会議所から参りました森田真未と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

円山動物園とは、今年の2月、氷の滑り台を作るところから、先日の雪の30トンのイベントのときもお手伝いさせていただき、何かご縁を感じております。お力になれるように頑張っていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○林委員 札幌テレビの林と申します。

私の立場としては、放送人の会の幹事として出席させていただきます。放送人の会というのは、全国組織で千代田区に事務所がございまして、全国のディレクター、プロデューサーが集まり、よりよい放送をしていこうということでやっております。

来年1月には、札幌コンベンションセンターで、名作の舞台裏というものをやらせていただくことになっております。これから道内でいろいろ活動していこうというところでございます。

このたび、私の方は、以前から押しかけてきて、何度か、旭山は元気になっているので

すが、東京から戻ってきて円山を見ると、本当に人数が少ないということで、ちょっとがっかりきまして、何とか力になりたいなというふうに思っています。また、放送というメディアの立場からいろいろとアドバイスをさせていただいて、広く周知して、旭山に負けないというか、旭山とは別個で円山独自の展開をしていくことに応援したいなと思っております。よろしくお願いいたします。

○原田委員 初めまして。

札幌市立大学の学長をしております原田でございます。

昨年は、リスタート委員会に参加させていただきまして、札幌市円山動物園基本構想報告書をまとめさせていただきました。この構想報告書というのは指針を示したということで、それではどうするのかということは、これから本年度から始まるいろいろな事業になるかと思えます。

私が初めてこちらに参りましたのは2年半くらい前になりますけれども、大学の設置準備のために来ておりましたところに、冬に円山動物園を訪れたのですね。すると、真っ白な雪の中にラクダがもそもそはっていた、そういう印象が非常に強烈に私を動かしました。そのときに、円山動物園に対する関心というもの非常に強くわき上がりました。そして、気がついてみたらリスタート委員会ということでやらせていただきました。

これからは、やっぱり若い学生の目も活用して、新しいクリエイティブな動物園の創造というか、創造力を生かした動物園にしていければいいかなというふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○服部委員 三信堂の服部と申します。初めまして。

私も、原田先生と同じように、リスタート委員会の方から引き続きこの市民会議に参加させていただいておりますが、ひとつよろしくお願ひしたいと思えます。

私は企業の立場でございますので、今、原田先生の方からお話があったように、基本構想がリスタート委員会でまとまりましたが、そのリスタート委員会で描かれたものは、企業で言えば経営指針になるわけでございます。その経営指針が本当にきちっと機能を果たすかどうか、そういったものを検証しながら、あるいは改善しながら意見を述べていきたいというふうに思えます。

もう一つは、円山動物園といえども、収支が合わなければ大変なことになるわけです。理想を追うだけではなく、やはり現実も見ていかなければいけないということで、計数管理の部分もくぎを刺していきたいというふうに思っております。

いずれにしても、健全経営で、そして、札幌市にとってなくてはならない必要な動物園としてよみがえっていく、その姿を追いかけていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○須藤委員 こんにちは。

須藤深雪と申します。4歳と1歳の子どもの持つ母親です。

円山動物園には、世界に誇る動物園に生まれ変わっていただきたいと思えます。母親と

して、女性として、微力ではありますが、お手伝いさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○鈴木委員 初めまして。

鈴木美佐子と申します

私は、北海学園大学法学部で、担当している科目は論理学です。動物園とは、専門は何も関係ございません。

私は、生まれたのは九州で、別府の高崎山があるところです。高校は東京で、高崎山や別府の動物園、東京では上野動物園、東武動物公園、多摩動物園と、動物園おたくみたいな女で、小さいころから動物園をいろいろ見てきました。9年前に東京から札幌に赴任してまいりまして、たまたま宮の森に住まいを持ちましたので、近くにこういう動物園があって、それも森の中に動物園があるということに大変感激いたしまして、せっせと通って楽しませていただいている者でございます。

私は、多分、ユーザーの立場からしか物を言えないだろと思いますが、もう一つは、今、大学におりまして、指導要領なんかが変わってきて、進化など、高校の生物Ⅱというところまで教えないようなのですね。そのあたりのことがあるのかもしれませんが、生きているものに対して学生たちは非常に固定的な物の見方をしているなというような気がするところがありますので、そういう学生たちが今どういうことを考えているのかということも理解していけたらいいなと思っております。

お役に立てるかどうかわかりませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

○井上委員 初めまして。

野外科学という主に環境調査をやっている会社から参りました井上と申します。

このたびは、公募委員に選んでいただきまして、ありがとうございました。

私は、鈴木先生と同じく、子どものころから特に動物園とか水族館を見学することが大好きでして、私の妻と6歳になる息子も動物園が大変好きなので、家族の間でもいろいろ意見を聞きつつ、一家全体でこの会議に参加し、微力ではありますが、市民の立場でいろいろ意見を出していけたらいいと思っております。よろしくお願いいたします。

○いがらし委員 こんにちは。

漫画家のいがらしゆみこです

円山動物園の方から今回の委員になってくださいというお願いがあって、わぁ、楽しそうと引き受けたのですが、きょうの雰囲気だと、今の段階ではかなり重々しい感じで、皆さんもすごくはっきりした考えを持っていらして、私は引っかけ回す立場になってしまいそうな感じがします。

今、道新で、動物キャラバンという獣医先生の家族の話を書いておりますが、それで動物園の方にも取材でいろいろ協力していただいた恩義がありますので、それには十分におこたえしていきたいと思って頑張らせていただきます。よろしくお願いいたします。

○金澤園長 ありがとうございます。

このほか、本日、所用であいにく欠席しておりますが、原はるみ委員がおられまして、合わせて9名でこの会議を構成することになりますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

今、いがらし委員からありましたように重々しい感じも何ですから、気楽にやらなければきつといい意見も出てこないかと思ひますので、スーツを脱いでいただいて、ひとつお願ひしたいと思ひます。

なお、皆さんのお手元に、資料1という番号がついた委員名簿が配られております。今後、この委員会等で使うものはみんな公表されていきますので、その名簿の表現について、もし記載内容を訂正した方がいいところがあれば、お帰りまでにご連絡をお願ひしたいと思ひます。今後この名簿で全部公表することになりますので、よろしくお願ひします。

#### 4. 議 事

○金澤園長 それでは、早速ですが、議事に入りたいと思ひます。

まず、第1回目ということで、まだ委員長が選出されておられませんので、委員長が選出されるまでの間、僭越ですが、私が仮の議長を務めさせていただきたいと思ひます。

委員の皆様には、この会議の設置要綱を事前にお送りさせていただいておりますので、一度はもう目を通されていると思ひますが、簡単にこの要綱の趣旨を説明させていただきます。

資料2に、市民動物園会議設置要綱がございますが、この第1条に、円山動物園基本構想の理念が守られ、目標に沿った経営が行われるよう、それから、動物園の運営に幅広い市民の意見と各分野の専門的な見識を反映させ、市民が運営に参加することをねらいとしていますと、ちょっとかた苦しいですが、そのように書いております。簡単に表現しますと、基本構想と、今現在策定中の基本構想に基づく実施計画、基本計画の進行管理、それから、園の運営に対する意見交換、経営状況、イベントや施設などへのアドバイスなど、こういったところを出していただければと思ひております。

委嘱期間は2年間となっております、平成21年8月22日までの2年間になります。

委員長は、委員の互選により選出し、会議の議長を務めることになっておりますので、これから委員長を選んでいただくことになろうかと思ひます。

以上、簡単に要綱の内容をお話しさせていただきましたが、要綱にかかわって何かご質問はございますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金澤園長 よければ、早速、委員長を選出させていただきたいと思ひますが、どのようにしたらよろしいでしょうか。

服部委員、どうぞ。

○服部委員 早速、意見を述べさせていただきたいと思ひます。

委員長としては、リスタート委員会で基本構想をまとめてきたわけでございますが、そ

こで大変ご活躍いただきお骨折りいただいたリスタート委員会の委員長であった原田委員に、引き続き、市民会議の委員長をお願いできれば、流れが見えるように思います。

○金澤園長 ただいま服部委員から原田委員を推薦する旨の発言がございましたが、皆さん、いかがでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○金澤園長 全員に賛成いただいたようなので、それでは、原田委員を委員長と決定したいと思います。

それでは、原田委員長、申しわけありませんが、委員長の席に移っていただいて、一言、ご挨拶をいただきたいと思います。

（原田委員長、所定の席に着く）

○原田委員長 ご推薦をいただきました。

基本構想をまとめる役を持った者が、今度は、それを進行管理するという立場の委員長ということで、うまくいくかどうかわかりませんが、とにかく市民動物園会議の委員の方々のご協力なしにはとてもやっていけませんので、そのところを最初をお願いしておきたいと思います。どうぞ、ご協力をよろしくお願ひしたいと思います。

○金澤園長 ありがとうございます。

それでは、これ以降の会議の進行は、委員長に交代したいと思います。

これまでのスムーズな進行にご協力いただき、本当にありがとうございます。

それでは、委員長、後をよろしくお願ひいたします。

○原田委員長 それでは、ここにいろいろ資料等がございますけれども、資料の確認、基本構想の説明、それから、この基本構想は3月に策定されたものでございますので、それ以降、現状までどのような経緯で進められているのか、そのあたりを園長からご説明いただきたいと思います。

○金澤園長 申しわけありませんが、その前に、委員長から職務代理者を指名していただけないでしょうか。

○原田委員長 それでは、委員長の代理といえますか、何かあった場合にかわってやっていただく方を指名させていただきたいと思います。

今ご発言のありました服部委員に職務代理者をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○服部委員 務まるかどうかわかりませんが、精いっぱいやらさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

○原田委員長 どうぞよろしくお願ひいたします。

○金澤園長 それでは、私の方から、まず資料の確認をさせていただきたいと思います。

先ほど資料1と資料2を簡単に説明させていただきましたが、お手元には、そのほか資料3-1と3-2ということで、基本構想の概要版というA3判1枚物と冊子になった基本構想がございます。また、資料4ということで、円山動物園事業概要がございます。そ

れから、資料5-1、5-2は、18年度の年間行事と19年度の年間行事予定がございます。そのほか、参考資料ということで、ピンクの事業概要がございます。これらが今後いろいろ使わせていただく資料になります。

まず、現状の説明に入らせていただきたいと思います。資料3-1、3-2の二つを使って基本構想について説明させていただきます。

今、委員長などからもお話がございましたように、動物園では、開園以来半世紀を経過しまして、これまで言われてきました施設が古いか展示方法といった課題や役割を再検討し、さらに、市民が満足し、市民に愛され、魅力あふれる動物園を目指して、市民や有識者による円山動物園リスタート委員会を昨年7月4日に設置し、検討しました。そして、原案を作成し、市民議論を経まして、年度末の3月22日に、動物園の将来の方向性となる将来構想をまとめたところございます。この構想が、お手元にある資料3-2という冊子ございます。この構想では、動物園が抱える課題を整理し、そして、動物園だけではなく、動物園周辺の円山地域、地下鉄円山公園までも含め、広い地域を対象に地域全体の魅力アップを視野に入れたものとなっております。構想は、皆さんも一度は既に目を通されていると思いますので、概要版に基づいて簡単にお話しさせていただきますと思います。

動物園の役割は、これまでは、どちらかというレクリエーションとか娯楽の機能を中心にしておりましたが、今後は、環境教育、種の保存、それから動物に関する調査研究機能も持とうというものでございます。この中にもありますが、(1)「循環型都市」実現に向けた役割ということで、札幌市の環境教育の拠点という役割を持ちましょう。これは、単に地球上の珍しい動物を飼育、展示するのではなく、その動物が本来棲んでいるところの環境や気象、えさとなる動植物、それから食物連鎖などにも及ぶ解説や展示によりまして、総合的な自然環境、あるいは、本来そこで成立しているべき、すんでいることにより命や物質の循環についてわかりやすく学ぶことができるようにします。そして、人、動物、施設が発信する環境に対するメッセージが互いに連携した総合的な環境教育の拠点を目指すというものでございます。

2点目は、北海道の生物多様性確保の基地としての役割を担うというものでございます。

ご存じのとおり、この動物園は自然豊かな立地条件にありますことから、これまでのように、単に今ある自然を消極的に保全、活用するだけではなく、動物園を取り巻く自然の生態系と調和し、そして、失われつつある地元の自然を修復しよう、そして、より積極的な行動に移行していこうということがこの基本構想の中で提案されております。そこで、北海道固有の野生動物には絶滅危惧種が少なくないことから、繁殖と自然への復元に力点を置くことが北海道にある公立動物園の使命であり、役割ととらえ、高い飼育技術を持つこの円山動物園が指導的立場を担っていくべしという書き方になっております。特に、北海道の中でも、開発が進んだ札幌市は野生動物の減少が著しい状況にあり、自然への復元作業も、市民、企業、大学等、ほかの研究機関とが横断的に連携することをこれから実現

させることが重要であり、そう目指すべきというものになっています。

そして、もう一つの役割として、積極的に多様なメッセージを発信する役割を掲げておりまして、ここでは、札幌市の施策について円山動物園を通じてさまざまなメッセージを発信していくという役割を持つものでございます。

基本理念としましては、人と動物と環境の絆をつくる動物園、こういう基本理念を持ちまして、この基本理念と、今申し上げた三つの役割を果たすため、三つの行動指針を掲げております。それが右側にある三つの柱でございます。

1点目は、「わたしの動物園」という視点からの行動です。

「わたしの動物園」の概念は、今まで「動物園で飼育している動物を見る」でしかなかったのですが、今回は、「わたしの動物」というオーナーシップや、市民が主役というイメージを感じさせる仕組みを導入しようというものでございます。そして、わたしの動物を動物園に預かってもらっている、または、わたしの動物がいる動物園に会いに行く、そういうふうに関係性の変化を提案しているものでございます。例えば、愛称がある動物ごとにファンクラブのように、この基本構想の中ではアニマルファミリー制度とっておりますが、こういったものを導入して、動物と市民の距離感を近づけ、あたかも家族のように深く知り、学べる仕組みづくりを進め、えさ代もファミリーが負担する体制づくりを目指すことが提案されています。

また、今、園内では解説を主体としたボランティアが活動しておりますが、今度は、イベントの企画運営や、園内の草刈り、塗装、あらゆる事柄に市民みずから参画していくようなシステムを構築していきたいと考えております。

それから、2点目は、生物多様性の確保に向けた行動です。

これは、地球規模で進行する自然開発のマイナスの側面、生態系、種、遺伝子、こういったものを三つのレベルで保護、保全しようという概念で、世界的な流れでもございます。そして、環境省の新生物多様性国家戦略にも合致する考え方でございます。例えば、北海道の野生動物復元プロジェクトとしまして、オオワシやシマフクロウを繁殖し、自然界に放鳥したり、それから、国蝶のオオムラサキ、また、子どものころに見たと思いますが、オニヤンマ、ニホンザリガニなど身近な昆虫類の自然への復元にも取り組んでいきます。そして、これらの作業にも、市民、企業、大学とか研究機関、こういったところとも連携して市民総ぐるみの運動へ発展させようというものでございます。

3点目は、自然豊かな円山エリアの中核施設としての行動を掲げております。

これは、先ほど申し上げましたが、円山動物園を取り巻く自然などを活用して、例えば、円山公園、円山原始林、北海道神宮、円山球場、大倉山シャンツェ、さらには、この周辺には宮の森とか円山西町という約4万数千人の人口が居住しており、こうした住宅地を初め、動物園周辺との一体的な連携が提案されております。ここでは、地域住民と一体となった活動を目指すこともあわせて提案されているところでございます。

次に、ページの一番下に、基本構想の取り組み期間ということで、簡単な絵をかいてお

ります。

まず、19年度中に、経営方針となる10カ年程度の基本計画と、まちづくり計画に連動する実施計画を策定します。そして、19年度を先行取り組み期間と位置づけ、着手可能な事業を先行して実施するというものでございます。さらに、動物園開園60周年がちょうど平成23年度ですが、平成20年度からそこまでを集中取り組み期間として、基本計画や実施計画に基づき、順次実施していく。そして、3点目は、その後に、社会環境の変化に応じ、変更を加えつつ継続し、おおむねまちづくり計画の改定に合わせて実施計画をローリングしつつ将来に向けて取り組んでいくことにしております。

そして、裏側になりますが、基本構想の実現に向けた考え方として、ここでは詳細な説明は省略しますが、ソフト面における事業展開、またハード面の施設や展示方法の方向性についても23年度までの主な検討事例が列挙されております。

このほかに、構想を的確に実施するには、経営基盤がしっかりしていなければならないということで、マネジメントの面からも方向性が示されております。ここだけは具体的な数値目標を掲げられておまして、平成23年度末までには入園者を100万人にします。それから、経常的収入は17年度に比べて倍、人件費を除く経常的な支出は17年度比30%カットを行い、積極的に基礎収支構造の均衡化を目指すことになっております。

そういった意味では、今年度は、この基本構想に基づきます基本計画策定のほか、北海道野生動物復元プロジェクトに取り組む一方で、ハード的な面では、類人猿館の改修、北方圏ゾーンの建設、こども動物園の改修、この3カ所の整備を行う予定でございます。

以上が基本構想案の概要でございます。

ここで、こちらの画面をごらんいただきたいと思っております。

これは、皆さんのお手元の基本構想の中には白黒で入っておりますが、このように動物園の中をゾーニングしていこうという考え方でございます。

この矢印でごらんいただきたいのですが、ちょうどこの部分に水色の線があります。ここには円山川という川があって、ここを中心にして自然体験ゾーンとかビオトープをつかっていこうと思っております。それから、この上の部分は、北海道（北方圏）ゾーンということで、北海道にいる動物、あるいはいた動物、さらには北方圏を含めて広い範囲の北国をイメージするもの、それから、中心部には、アジア・アフリカといった大きなものを考えております。それから、その下にあるふれあいゾーンというのは、こども動物園を中心とした触れ合い系を強化していきましょうというものでございます。そのほか、大きくエントランスということで、ここにはないのですが、上にも出入り口を設けたい。それから、下の方の今ある2カ所については、基本構想の議論の中にカフェとか商業施設がいろいろ出ていたものですから、そういったことをイメージしております。

そこで、本年度の取り組みですが、基本計画の策定は、今まさに事務的に淡々と進めております。それから、ビオトープの調査設計とか野生動物復元事業ということで取り組んでいますが、これは調査系の類なのでお見せするものがございません。それから、北方圏

動物の展示ゾーン、こども動物園の再整備、類人猿館の改修、こういったハード系のものを今やっております。今は実施設計の最中なので、とりあえずイメージ図だけをお見せしておきたいと思っております。実施するときにはもう少し形が変わっております。

類人猿館は、こちら側はもともと既存のものがありますが、表側のさくのところは改修してお客様から見やすいものにしていこうと。今はちょっと距離感のある施設なものですから、その距離感を縮めようというつくり方です。これは、もう少しすると実施設計が終わるので、そうすると本当の絵が出てくるかなと思っております。

これは、北方圏展示ゾーンです。今この動物園にいるのはオオカミとエゾシカですが、右半分はオオカミ、左半分はエゾシカです。もともと北海道にはエゾシカ、オオカミがいて、そのほか大きなものとしてはヒグマですが、その3種がおりました。その中で、オオカミが絶滅してしまったということもあって、要は北海道の中でも食物連鎖があったと。それに人為的なものが加えられたことによってもっと拍車がかかり、オオカミが絶滅してしまったということがきっちり伝えられるといいなと思っております。そして、一方でシカを保護してきましたが、今度はシカがふえ過ぎたということで現代では別の問題もあるので、そういった展示ができればいいなと。そして、この真ん中に両方の施設を見ることができるよう両面ガラス張りのものにつくりかえようと思っております。

それから、こども動物園です。まだ絵がないのですが、この中をつくりかえて、どさんこの森ということで北海道の小さな動物たちを展示できるようにして、北海道というものをしっかり出していこうと思っております。

今はこんな取り組みをしております、いずれというか、次回の市民動物園会議では、しっかりしたものを出せると思っております。大体9月の中くらいから工事に入っていくこととなりますので、その辺になりましたらもう少し詳しい絵をお見せできると思っておりますが、これが平成19年度で取り組んでいる状況でございます。

次に、資料4の動物園の事業概要ということで1枚物でございます。これには、平成19年度、18年度のものを含めて整理しております。

まず、事業概要でございますが、上から行きますと、1951年、昭和26年5月5日、子どもの日に道内で最初にできました。そして、全国でも10番目に開園した動物園でございます。ちょうど56年が経過して、もうすぐ還暦を迎えようとしております。

面積は22ヘクタール、南北700メートル、東西400メートルのほぼ楕円形をしたものです。ここに、動物の施設として27棟、管理教育系の施設31棟が配置されております。

入園料は、現在、一般の普通入園料が600円、年間パスポートが1,000円でございます。中学生以下と65歳以上の高齢者は無料です。また、12月29日から31日までの3日間は休園しておりますが、残りのほぼ1年間は開園しております。

入園者数は、昭和49年、1974年に、これまでの最高の数字ですが、当時の札幌市の総人口に匹敵する124万人を記録しております。その後はじり貧で、17年度は49

万人まで落ち込んでおります。そして、18年度は61万人ということで前年度比25%の実績を残しました。全体では25%伸びたのですが、特に有料の入園者数、有料と無料がありますが、有料入園者数は28%伸びて収支改善に少し貢献できたと思っています。

次に、飼育・展示動物です。開園当初は、オオワシ、ヒグマ、エゾシカの3種で動物園が始まりました。その後、だんだん動物がふえてきて、今では都市型の動物園として、動物図鑑のように飼育、展示する動物もふえてきております。ここに表になっておりますが、ことし4月1日現在で、哺乳類、鳥類、爬虫類、さらに昆虫も加えて214種、約3,700点と多数の動物を飼育、展示しております。

これらの飼育・展示動物の施設の運営や維持管理に要する予算ですが、その下にございます。収入・支出ともに19年度、18年度、17年度の3カ年をまとめて掲載しておりますが、19年度で申し上げますと、収入は入園料が1億7,300万円、売店やキッドランドに対して土地を貸しておりますので、それにかかわる使用料として約2,000万円、その他として1,900万円、合わせて2億1,400万円の収入を得ております。一方の支出の方では、飼育・展示動物や施設の運営、さらには維持管理、それとことしの基本計画策定費のお金も入っておりますが、そういったもので5億1,200万円の経費を計上しております。5億円に対して2億円の収入がございますので、約40%は入園料等の収入で賄っておりますが、残りの60%は一般財源、市民からの税金で補てんされて運営されているということになります。このほかに、施設整備としては、今イメージ図でお見せしたように、類人猿館とか、北方圏ゾーンなどの3カ所の整備がありますので、それに2億6,700万円を要しているものでございます。

これが事業概要でございまして、ピンク色の参考資料の18年度事業概要には、予算のことも動物のことももっと詳しく書いておりますので、時間のあるときに見ていただければと思います。

次に、資料5、年間の行事にかかわるものですが、5-1は18年度の結果、5-2は19年度の予定も含めたものでございます。

この表の見方ですが、左側の欄に新規とあるのは、当該年度に新しく事業を起こしたものでございます。それから、網かけになっているのは、動物園が直営ではなく、動物園と市民、企業などが共催で実施したものでございます。また、白抜きのところが動物園の直営事業になりますが、その中には動物園とほかの団体とのタイアップも含まれておりますけれども、ほとんど動物園が中心となっているものでございます。

このように、年間を通していろいろなイベントを実施しております。特に19年度は、これから実施するものも入れますと、裏側のページもございまして、土・日も休みなくイベントが組まれておまして、イベントを通して市民や企業などが参画し運営するなど、市民参加型の動物園の実現にも一方では力を入れております。このほかにも、園内では、多くの動物との触れ合いやえさやり体験などを通して、見る、触れる、体験する、感動できるというようなことに取り組んでいます。それがみんなのドキドキ体験ということで、

現在31種類のメニューを公開しております。そういった形で、一人でも多くの市民が動物園で楽しめるようにいろいろな工夫をしているところでございます。

これが現在の様子ですが、今後、こういった点についても皆様からいろいろご意見をいただきたいと思っております。

以上で、基本構想の概要と現在の取り組み状況について簡単に報告させていただきました。

以上でございます。

○原田委員長 ありがとうございます。

ただいま動物園側から基本構想の概要とこれまでの取り組みについていろいろご説明をいただきましたが、これに関して質疑をしていきたいと思っております。

まず、わからないところとか、こういうところはどのようになっているのかとか、何が問題であるのかとか、そういうことがございましたらそれぞれの委員からご発言をいただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○服部委員 18年度及び19年度の円山動物園の年間行事の状況をご報告いただいたわけですが、それについて、当然、来園者数あるいは収入等の計数管理はできていると思っておりますが、その辺はいずれかの段階でお出しいただいて精査していくことは……。

○金澤園長 きょうは顔合わせということもあったので、すべての資料まで用意しておりません。決算等については10月に議会で審査されますので、その時点で整理したものをお出しする予定でございます。

○服部委員 新規のレベルの中で来園者数が増になっているという評価を下せるような姿になっているのでしょうか

○金澤園長 17年度、18年度の間では増になってはいますが、19年度は今やっている最中です。ただ、途中経過だけで申し上げますと、今のところ、去年よりちょっと厳しい状態になっていて、七、八%のマイナスになっております。こういう野外の施設ですから、天気にごく左右されます。ちょうどことし5月のゴールデンウィークから毎週土曜日が雨でした。それから、この8月のお盆の時期ですが、お盆の時期は、毎年、結構入るのですが、その時期に33度とか34度という暖か過ぎる状態になったものですから、去年に比べてちょっと人数が落ちています。そういった全体の落ち込みがあって、今は厳しい状態かなと。これから9月以降、またいろいろなイベントが入っていきますので、それでどのくらい回復できるのかなと、正直なところ、そう思っております。何とかそれをクリアできるように冬までかけて頑張りたいと思っております。

○服部委員 絶えずチェックだけはしておくことが必要なので、よろしくお願ひしたいと思います。

○金澤園長 人数だけだと毎日出ます。

○服部委員 やはり、収入が伴っていくかどうかだと思います。

○原田委員長 ほかに何かご質問等はございませんか。

○いがらし委員 服部委員がおっしゃったように、収支が伴っていかねばというお考えは非常にわかりますが、そういうことが伴ったアイデアあるいは発想でなければ言っ  
てはいけないのでしょうか。

○原田委員長 そんなことはないと思います。

○いがらし委員 お金が幾らかかるかわからないけどという感じで発言してもよろしいで  
すか。

○原田委員長 結構ですよ。どうぞご自由をお願いします。

○いがらし委員 収支が合わないと言われてしまうと、どきどきしてしまいますね。

○原田委員長 そういう点で、構想の中に盛り込んだアイデアといいますか、そういうも  
のがありますねということで、特に三つの柱の行動指針において、一つ目のわたしの動物  
園という視点からの行動の枠の中で冒頭のところですが、アニマルファミリー制度の導入  
などというふうにあります。例えばですが、平成19年度の予算で入園料が1億7,30  
0万円ほど見込まれているというところがございませぬ。その段階で、上の入園者数を見  
てみますと、平成18年度で61万1,000人、平成18年度の予算では1億3,80  
0万円とありますが、61万人の入園者数があって、そのうち10%、6万人を対象にし  
てアニマルファミリーと、この動物たちの家族になってもらえませんか、この動物たちを  
あなたたちの息子や娘にしてもらえませんかというような声をかけて、1頭当たりあるい  
は1匹当たり3,000円の寄附金をえさ代あるいはその他何がしを含んでお願いして、  
そういうことをさせていただきましょうという家族にめぐり会えれば、6万人の方が3,  
000円となると掛け合わせればそれだけで1億8,000万円になるのですね。入園料  
が平成19年度で1億7,300万円ですから、それとほとんど同じくらいの寄附がアニ  
マルファミリー制度を実施するだけで得られることになるわけです。

ただ、家族になってもらうだけでは、多分、どんなメリットがあるのですかと必ず質問  
されますので、そのときに、アニマルファミリー制度でこのようなサービスが得られると  
いう中身、コンテンツを設計してそれを差上げると。例えば、ムービーのDVD、短い  
30秒アニメーションみたいな動画を差上げるとか、そういうことも含めて考えていき  
ますと、結構乗ってくれるのではないかなと思うのですね。

先ほど園長からことしの入園者数はちょっと厳しいというお話がありましたけれども、  
全く視点を変えて、入園者数をふやすというよりも、家族になってもらうことによるクラ  
ブ費用みたいな、そんな費用をちょっとご負担していただくようなアイデアで、別の資金  
繰りをつくり上げていくことは可能なのではないかなというふうに思います。

今の取り組みのところではそういう説明は一切ございませぬでしたけれども、その辺は  
何か動物園側として考えているのでしょうか。

○金澤園長 今、制度の設計をしている最中ですが、実は、お金の管理というのは非常に  
難しいです。というのは、公金ですから、後で何かあったら困るので、そこをしっかり詰  
めてから皆さんに公表しようと実は思っていますので、それにはもうしばらくお待ちいた

だきたいと思います。遅くとも年末ぐらいにはそれを打ち出せるようにしたいなと思っております。何せ、お金の管理というのは、今の年金制度ではないですが、後であんな話になったら嫌なものですから、しっかりしたものを組み立ててから手をつけたいと思っています。

そのときに、愛称のある動物すべてを一度に対象にするか、または、代表的なものを何種類かやって、制度をやりながら見直して全部に広げるか、そういった方法も考えていますので、そういったところは、公表までにはもう少し時間がかかります。先の話になりますが、大体3カ月に1回ぐらいのペースなので、日程的に次回は11月か12月ごろになると思いますが、そのぐらいの時点では少しお出しできるなと思っております。

○原田委員長 そういう見込みがあるということだと大変うれしいなと思います。

○鈴木委員 今のことに関連して、さっきから思っていたのですが、今後のこの会議の進行の仕方といいますか、きょうご説明いただいたことをまだよく理解しておりませんが、今おっしゃったようなアニマルファミリー制度というものを導入します、いつごろから始めますということについて、委員長や服部委員は大体ご存じなのだろうと思います。そうではないのですか。

○原田委員長 そういうことではないですね。

○鈴木委員 いつごろ始めるのだろうかということもわかりませんし、例えば、次回の会議にこの件がかかってきて、それについて、我々が意見を申し上げる、あるいは、こういうことをもっと考えた方がいいのではないかというようなことを申し上げて、それを酌んでいってよりよい制度にさせていただくのだとしたら、少しでも情報を下さった方が考える材料になると思います。年に4回ぐらいですか、そういう形でテーマ別に何か出てくるような格好でこの会議が運営されていくのか、そのあたりのことを教えていただけたらと思います。

○原田委員長 この会議と、先ほどスライドにもちらっと出てきましたけれども、構想は3月までに出了したので、それで、今まで何がしかの取り組みがなされていて、そのご説明を先ほど承りました。それに加えて、基本計画というのは、どういう範囲まで、どのような順序で、年度ごとにどんな内容が計画されてこれから進められるのか、そのあたりを前もって俯瞰できるようなチャートがあるといろいろ考えられるということでございますね。

それについてはいかがでしょうか。

○金澤園長 基本構想の概要の右下にあるように、こういう取り組みをしますと、これはまだイメージだけなのです。まさに、基本計画というのは実施計画になるものですが、札幌市の場合、動物園の実施計画とは別に、札幌市全体の中ではまちづくり計画というのがあります。5年計画とか3年計画と言われる実施計画ですが、今それをつくっている最中なのです。しかも、ことしは市長選がございましたので、首長が変わることによってその計画は変わりますから、そんなこともあって今まさにつくっている最中なのですね。それ

と、動物園が今やる基本計画の整合性をとりながら計画をつくっていきたいと思っています。そこで、まちづくり計画は大体3年ないし4年のスパンですから、基本計画は3年、4年ごとにころころ変えていかれないので、基本計画のスパンは倍ぐらいに長くしておいて、そして1次計画、2次計画というつくり込みをしていきたいなと思っています。

それから、その基本計画の中で、何年に何をやるというのはちょっと難しいと思います。大体こういう順番ですということは出せても、何年に何をやるというのは予算が伴います。予算というのは、札幌市全体の予算の中で、しかも議会で議論しなければ決まらない話なので、おおよその順番しか決められません。そういう中でのやりくりになります。どなたかがまとめて10億円ぐらい寄附すると言ってくればそれは優先的にできますが、そうはいきませんので、札幌市全体の予算の中でもさらに順番がついていくという問題がありますから、何年に何というがちがちなものは簡単には書けません。基本的には、古い施設と新しい施設をやる時には玉突きがありますから、そういった順番をおおよそイメージしていこうと思っています。

いずれ中間くらいでそれをまとめたときには、また一度、お話しさせていただきます。○林委員 今議論されている問題を戻すかもしれませんが、きょうの会議は、基本構想がこうやって公開されていますから、当然、基本構想が委員の前で確認されるということでしょう。今までインターネットでは、既に、円山動物園の中でリスタートのものは多様な資料が掲載されているので、そこを見れば議論されていたことは大体読めるかと思いますし、市民の中でも関心がある人たちはそれを読んでいるというふうに思いますので、基本的には、きょう、円山動物園ではリスタート委員会から受け継いで発表されたのだと思います。

そこで、この基本構想に従って、先ほど具体的に出たアニマルファミリー制度などを含めて、本当に推し進めるべきこと、何を重点にしてやるべきこと、その順序は決められないにしても、できれば何を中心にしておくかを明確にすることで、市民を代表する中で、我々も応援する、あるいは、市民もきっと賛同を得るだろうと。

もちろん、リスタート委員の中には、非常に経営的なこともあるし、それから理念的なこともあります。僕は、正直に言って、メディアとして見ますと、とにかく官庁のつくる構想というのはだれに読ませるんだろうと思います。これをこのまま出すのだとしたら、正直に言って、小学生は読めない。恐らく、中学生も読めない。高校生も読めない。ということは、だれに読ませるつもりなのか。もちろん園長を批判しているわけではないですよ。応援しているんですからね。

ということは、これから、表現するとしたら、先ほどおっしゃったことも同じだと思うのですが、まずこれを市民に知らせることから始めなければいけないので、順番はそれぞれ予算があって、園長もいつまでいるかわからないでしょうから、官庁というのはそういうものだと思うのです。今厳しいことを言いましたが、もう少しこれを具体的にされた方がいいのではないかと、私どもは述べさせていただいていいのだろうと思います。

というのは、僕自身も何度も読んだのですが、正直に言って、黒く太い字で書いてあるものは読めるのですが、どうも心に落ちてこないのですよ。落ちてこないということは、具体的に何をするかということを見ると、委員長がおっしゃられたように、例えば6万人を集めてこうすれば円山動物園は再興するというか、ある意味でみんなの動物園になるかもしれないということじゃないですか。そういうことをどう言葉化していくか、わかりやすくメッセージにしていくかということがこれからすごく大事なのかなと。せっかく10カ月お考えになったのですから、ここを読み解くところから始められたらどうなのかなと。リスタート委員のお二人もいらっしゃるわけで、これはこういうふうにして話されたことなのだ、だからこうなのだというのはどうなのかなと。動物園としては、それを決めたのだけれども、なかなかお金がついて回らないので、それよりは、この構想の部分で少し意見を伺いたいというのであれば、それはそれでというふうに、ちょっと生意気ですが、僕はそう思いました。

僕は久しぶりにこれを見たら、やっぱり、保全とか啓発という言葉を見ると、保全と啓発とは具体的にはどういうことかなとか、何をやるのだろうなというのが見えないのですね。ということは、何か、やっぱり旭山動物園ではないですが、施設を建ててしまったらそれがもうわかりやすいというふうになってしまうのは、僕は見たくないのです。具体的に施設をたくさん建てて、何かゾーンのようなお考えとか、そのことをなるべく伝えてほしいなど。僕は十分理解しているつもりですが、ちょっと何か、11月になってもこれが変わっていないとしたら、極端に言うところ恐らく市民の1割ぐらいしかわからないのではないのでしょうか。

そう思うのですが、いかがでしょうか

これはリスタート委員会で考えたものをまとめたものだと思うのですが、それをどう具体的にしていくか、言葉化していくかという作業が次にあるのではないですか。

○金澤園長 次に具体化するのが、まさに今やっている基本計画なのです。基本構想というのは、3月22日に、最終的に行政の最高責任者である市長が決裁して、これは動物園の方向性としてなりましたということで既に市民に公にしてありますから、今さらと言ったらあれですが、基本構想をどうのこうのということはもうできません。

それで、その基本構想に基づいて実施計画をつくります。ただ基本構想といっても、いつまでという期限があるものではないですから、長いスパンの中でやる方向性だけ決めてありますので、そこで、企業的に言えばこれも長期になると思いますけれども、基本計画として10年ぐらいのスパンの経営方針を立てて、それに基づいて実施計画を立てましょう。今の時代だと、本当に10年なんか一昔どころか二昔ぐらいになってしまっていますが、それで実施計画を立て、札幌市のまちづくり計画に合わせた年数できちっと追いかけていこうという趣旨にしてあります。

今、林委員が言われたのは、目で見えないとわからないというところだと思うのですよ。そこは、今、施設もできるだけイメージ図をきちっと出しています。実際にそのとおりに

いくという意味ではないですが、こんな感じのイメージでこういう動物館なり施設館だと、そういうメッセージが伝わるところまでお見せできればなと思っています。そういうつくり込みは、今まさにやっている最中です。

○服部委員 私もリスタート委員会に参加させていただいて、基本構想をまとめるということがリスタート委員会の仕事の大きな役割でございました。そして、それがここに示した構想の概要版に出ているのだらうと思います。確かに、これは、ぽんと渡されたら何なのかということで理解できない部分もあろうかと思っています。ただ、これは、リスタート委員会として札幌市に答申した、こういう構想を持ってやったらどうですかということで打ち出したということをもっと理解してもらいたいと思います。

これからさらに実施計画、基本計画を策定していきますが、その中でこの市民会議の果たす役割がたくさん出てくるのだというふうに思います。できれば、今後の動き方の中で、会議のあり方も含めて、基本計画の中のどういう部分をこの市民会議として担っていくのかということはこの会議の進め方の中で作り上げていただければ、そういう意味では皆さん方もさらに理解を深めながら意見を言うことができると思うので、ぜひそういう進め方をさせていただきたいと思います。

これは、あくまでも基本構想ですので、これを市民にすべてわからせるという枠組みでやっているわけではないと思います。今度は、これをさらに具体化し、市民にアピールするにはどうすればいいか、言葉化するためにはどうすればいいかということをもう少し議論する必要があるのではないかと思います。

○原田委員長 この市民動物園会議というのが一体何を役割をとしていけばいいのかということなのですね。構想がうまくその指針どおりに進んでいるかどうかと。動物園の事業化の取り組み期間を見ますと、今後4年間にわたって進んでいく予定になっておりますが、それが構想の内容を充実していく方向にうまく進んでいくのかどうかを監視するというようなことだと、監視するというのはちょっときつい言い方ですけども、一体、何を監視すればいいのか、そのコンテンツがはっきりわからないのでは任務としてやれないではないかというご指摘ではないかと思うのですね。構想というのは、具体的な内容を余りはっきり打ち出しておりませんので、いろいろなディスカッションは、林委員がおっしゃるとおり、実はホームページの中で随分書かれておりますけれども、構想報告書の中身としてはそんなに具体的な内容は盛り込まれていないと思うのですよ、

そういう意味で、吟味をして、その中からこれだけはやっていかなければいけないだろうというものです。構想はこうで、三つの行動指針があってその行動と書いてありますが、何を行うのかという内容については、もう一度、やっぱり委員の皆様を確認していただく必要があるのではないかと思います。構想の中に書かれていないので、こういうような行動を起こしていくべきではないかと、そういうご意見もここでいろいろ提案していただきたい。構想というのはそんなに中身を表現しているわけではないので、まさに指針というわけですから、それを具体的な中身として、こういうことをやっていこうとわかるよ

うに、そして、それは必ずしも施設というふうに落とさなくていいのではないかというふうに私は思っているのです。

先ほどのアニマルファミリー制度みたいなものも、一体どこまでどうやるのかといったことも、今やっているから待ってねではなく、一体これは何を実現するためにやるのか、実際に何をするのかということについては、やはりここで意見を交えておかなければいけないのではないかというふうに私は思います。

先ほど、いがらし委員から、お金がかかることは言うてはいけないのかみたいなご意見がありましたけれども、かかろうが、かかるまいが、動物園のためであればいろいろご意見を言っていただいて、そのお金については何か知恵を働かせてそれに充てればいいのではないかなど考えていくべきではないかなと私は思います。

結論的には、林委員がおっしゃられるとおり、ここには余り内容が書かれていないのでわからないのですね。指針だけが記されているのとどまっているわけですから、中身については、ここで熱い議論をやっていただくためにこの市民動物園会議が持たれているのではないかなというふうに私は思います。

ここでいろいろと議論を闘わせるためには、先ほど現在の取り組みについてのご説明がありましたけれども、基本計画というものがどのようにつくられていこうとしているのかについての説明がなかったように思います。これは、多分、次回に、動物園サイドから、このような方向で基本計画が進められるというご報告があるのではないかと私は期待しております。それは、きょうではないのではないかと思うのです。次回を待ってご説明をいただき、それについて委員のご意見をいただきたいというふうに思います。

そういうふうにとらえてよろしいのでしょうか。

○金澤園長 はい。

○林委員 本当に一般的なメディアとして、私は札幌テレビに所属していますけれども、それを度外視してお話をしています。

一番肝心なことは、この市民会議でこうやって話されていること自体、あした発信されるわけです。そのとき、一番最初に見出しがどうなるかということなのです。会議が開かれるというのが道新に載っています。道新は、非常に丁寧にこのことを表現してくださっています。さて、あしたの記事はどうなるのだろうかと考えたとき、園長、どうなるとお思いですか。

そこなのです。つまり、別段、僕は責めているわけではなくて、すごく応援したいのです。それと同時に、マスコミの人たちも、書くときにやはり一緒になって応援するという気持ちで書かないと、ただ、ありましたという報告より、動物園はどうも楽しいことをやっているらしいし、熱っぽく語っているらしいし、みんな参加しないとまずいのではないかなというものが、先ほど言った6万人のファミリー制度にもつながっていくのだと思うのです。

ところが、11月までちょっと待ってというのは、園長さんのお立場も非常にわかりま

すし、環境局からいらっしゃっている方も非常によくわかるのですけれども、園長や動物園の人たちを支援してほしいのです。というのは、なぜかという、やはり、メディアといった以上、毎日毎日、お客さんが来るたびに発信されているのです。市役所は、建物から出かけていく人が行かない限り発信はされていないと思っているかもしれませんが、発信されているのです。動物園は、まさに毎日発信されているのですね。こんなとき、こんなふうに会議があるときに、その中で発表がされるものがないと、これはメディアにとってはむだな時間なのです。

恐らく、これは投げ込みの記事で書かれて、こうだからこうだったと書かれます。この時間まで取材しているNHKはすごくまじめだと思います。普通、民放だとこの時間になると帰ります。NHKは非常にまじめにこうやって取材されるのはすばらしいと思うのですが、果たして原稿を書くときどのぐらいかという、そんなに長くはしないでしょ。こんないきさつも書かないでしょうし、こんないきさつを書かれても困るでしょう。困るというのは、NHKも困るし、こちらも困るのです。

ただ、キャッチは必要なのです。それを発信し続けないと、僕は寂しい気持ちになるのです。せつかくいがらし委員もいらっしゃっていて、何を話してもいいのと言っている。つまり、市民の方もたくさん公募して、これから動物園がちょっと困っているらしいと。それでいいと思うのです。だけど、とにかく、例えばファミリー制度とか何かこういうものを導入してしっかりやっていきたいというようなことを一つでもきょう出した方がいいと思います。

また、基本構想が固まる云々という、4カ月たつと、市民は何だろうと思ったときにもう冬ですよ。せつかく、まだ秋口で、これからシーズンになってくるのに、ファミリー制度って何と聞かれてアンケートをとったら、結構いるとなると、やはり園長の助けになると思うのです。

しつこいですが、しつこく言わないと市はなかなか動かないから、できれば、きょうはマスコミにも何か一つをお持ち帰りいただいて、このようなことを具体的にやって、先ほど服部委員がおっしゃったように何とか収支構造を上げていこうと。それは、旭山動物園がこんなにもうけているらしいとか、こんなに入っているらしいというやしい根性ではないです。本当に円山動物園は円山動物園として何かリスタートしようとしている、その一つの象徴が幾つかのこういうものだ。構想が立ちましたので、基本計画というときに、この会議が行われた、いがらし委員初め、委員が熱い討論をされたという記事で、僕の予測では恐らく10行で終わると思うのです。10行で終わる中に、そこに何があるかというのは、きょう申したようなことを書いてもらうようなものにしようよというふうに、ちょっと長くしつこく話しましたが、思います。

○原田委員長 ありがとうございます。

そのように、毎回、市民動物園会議が生き生きした会議になるようにご協力をいただきたいと思います。

そういう意味で、私は、先ほどのファミリー制度を一つご質問したわけです。これについては、お金のかかることであるので、少し慎重に考えているということで、もう少し待つということなのです。

ただ、この地図があるページの一番下の左側に、かなり重要なことが書かれているのです。円山動物園独自の、これは展示というふうに書き込んだ方がいいかどうかは別ですが、評価方法（円山評価法）を確立し、絶えず展示の改善を行いますというふうに書いてあります。これは言葉を少し変えてみますと、円山動物園基本構想の評価方法、円山評価法を確立し、絶えず構想の推進を図りますと。何かそういうふうにと考えると、これはいけるのではないかなというような希望もわいてくるわけです。何か、次々と新しい施設について取り組んでいますというような説明ではなくて、今後こういう方向で考えていきたいというようなコンセプトが提案されていくと、それを評価方法として、ただ新しい、新しくないということだけではなくに、先ほどの三つの柱のわたしの動物園という意味でその提案は評価できるのか、どのぐらいの高さで評価できるのかと。それから、生物多様性の確保といったような、いわゆる生き物を大事にしましょうというような観点で、あるいは、環境教育の展開という意味で、かなり高い評価を与えられるのではないかとか、あるいは、円山エリアの住宅施設としての行動としてその提案は高い評価を得られるかと。そのように、評価軸、あるいは評価の視点というものを常に片一方に置いておくと、ここでの議論もしやすいのではないかなというふうに思います。

入園者が多くなる、あるいは、3カ月たってこれだけの収入を得たという金銭だけの計測方法ではなくに、先ほどの指針が三つあるわけですから、そういう指針の評価軸というものについて、3本の評価軸がある、それに対してどういうふうの評価すればよいのかということを中心にいろいろと議論していったら、評価法を確立していくのが一つの方向性としてあるのではないかなというふうに私は思います。

ほかの委員も、市民動物園会議の中で、どのようなことをテーマにして、どのようなことを議論していけばいいのかということについて、きょう、ご意見をいただければいいなと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○いがらし委員 話がまたもとに戻りますけれども、先ほど林委員がおっしゃったように、きょうはマスコミの方に来ていただいているのであるならば、やはり、円山動物園というのは市民に対してどういうアプローチをしたいかみたいな、簡単に私たちの漫画ではキャッチコピーと言うのですが、それは中身が多少決まっていなくても、見る人にわかりやすいということを選ぶわけです。

ですから、円山動物園は、札幌市民のためにアニマルファミリー制をつくったというのと、アニマルファミリーって何だろうという好奇心を市民の方にあおることになるわけです。そうすると、アニマルファミリーだけではなくて、ほかにあるのですとわかった人に後づけで説明していく方法がマスコミの配信ですよね。

○林委員 そうです。

○いがらし委員 最初にわかりやすい言葉で興味を持ってもらって、面倒くさい複雑なものは、興味を持った人に後づけでゆっくりと教えていくのはやはり大切なことです。私たちが漫画をかく上で一番大事なものは、幼稚園児がわからなければ大人もわからない、幼稚園児がわかれば大人もわかる。ですから、子どものわかる言葉で作品をかきましょうというのがコンセプトなのです。

そういう意味では、子どものわかる言葉で記事にしていれば、円山動物園は、やっぱり親子でありファミリーの動物園としての一つの方向性は出ると思うのです。それは間違っていないと思うのです。

だから、とりあえずNHKの方にもコンセプトを渡して……。

○鈴木委員 先ほどの委員長の円山方式の評価ということ言えば、これは三つの指針があります。性格分析なんかでもありますが、円があつてと、ああいった形で言えば、このアニマルファミリー制度をそれで評価すると、一番の上のわたしの動物園というところが非常に特化したシステムとして、とにかく早くこれを考えているということはこの会議の場では確認されて、今、しようかというところなのでしょうか。

○原田委員長 その辺は、実は意見をいただきたいところでもあるのです。今おっしゃられていることは、レーダーチャートみたいな、3本の軸があつて、この間についてはこういうような三角形がかけるとか、そういうふうにして評価していく。そこで、円山動物園はこういうような方向に進んでいってはどうかというのが一つの提案として、委員の合意として形成していくというようなことは、この動物園会議の場の機能として大いにいいことなのではないかなと思うのです。

ただ、余り指針の軸だけに限定していってしまうと、ちょっと足元をすくわれるところもあるかなと思います。さっきおっしゃられたように、刻々と、世の中の価値の軸というのはいろいろシフトして、振れていますので、これがいつまでもずっとこのままであるということはありません。ですから、新しい軸を付加していくことも、市民動物園会議の役割として考えていかなければならないのではないかなと思います。

今おっしゃっているように、アニマルファミリー制度というものについてちょっとした説明をしましたから、そこにフォーカスが当たっているように見えますけれども、ほかはないのかというのは、実は構想の中に書かれている内容なのです。これについて、きょうはそういうフォーカスをどこに当てるかということを決めていってしまうには、ちょうど時間が来てしまっているということがあります。

実は、きょうの予定としては4時ぐらいまで時間をとっています。ただ、残りの30分については園内の視察を行うというようなプログラムになっているようですので、その時間は、園内を見るよりも、きょう少し観点をまとめておいた方がよいということであれば、継続してもう少しここでディスカッションを進めたいと思いますが、いかがでしょうか。その方がよろしいですか。

○服部委員 その方がよろしいと思います。

林委員がおっしゃったように、そういった観点で、では、何をフォーカスするかということになるでしょうけれども、そういうことではなく、やはり動物園をリスタートさせたわけですから、スピーディーに物事が動いていかないと市民はついてこないだろうというふうに思います。この会議の中でも、この三つの行動指針、いわゆる活動計画もここから生まれてくるでしょうから、その中でどれを優先順位に当てるかというようなものを明確にしていくべきだと思います。そうしないと、やはり時間的に過ぎてしまうだろうし、そういった意味では、アニマルファミリー制度というのは基本構想の大きなテーマの一つであるし、リスタートの大きな目玉の一つとして位置づけたわけで、これはどんなことがあっても基本計画の中に入れていきたい、そんな思いがあります。

皆さん方は、そういう意味でご賛同あるいはご意見いただけるのであれば、アニマルファミリーについてももう少し具体的に次のレベルに達し得るようなものを用意していくことが必要ではないでしょうか。

○原田委員長 私、このアニマルファミリー制度にフォーカスを当ててしまうよりも、やはり、この三つの行動指針について、それぞれの委員はそれぞれのお立場でこちらの軸をもっとより大切にすべきなのではないかというようなご意見お持ちでしたら、きょう、言っていただいた方がよろしいのではないかと思います。

そういう意味で、例えば簡単に三つの柱について申し上げたいと思います。

わたしの動物園という視点からの行動というのは、確かにアニマルファミリー制度に代表されるようなところがありますけれども、言っていることは、感動をもっと与えなければ人は来ませんよということなのです。それと同時に、触れ合いというもの、動物と触れ合う機会、チャンスをもっとつくらないと、ただ動物を見るだけという形では今までの動物園と同じなのではないかと。やはり、リスタートをかけるということは、新しい触れ合いの形を実現する、リアライズするということが必要なのではないのでしょうかということを行っているわけです。

アニマルファミリー制度というのは、さっき気づきみたいなことを言いましたけれども、必ずしもそれだけではなくて、いずれにしてもここは市立の動物園でございますので、その動物たちは市民の税金によって何がしかのかかわりを持って購入されているわけです。つまり、これは市民の動物なわけで、それを動物園に預かっていただいているというふうに視点を逆転させて考えるべきであろうというところが、わたしの動物園という基本的な軸であると私は思っているわけです。

そういう意味で、自分たち市民の動物であるならば、市民はその動物に対して何を期待するのか、何をしてあげたいと思っているのかというあたりを動物園は探って、それに対する代償を動物園側が市民に対してあげなければいけない、そういうことが必要なのではないのでしょうかというのがわたしの動物園というところです。

それから、2番目の生物多様性の確保というのは、確保と言うとちょっと固い言い方ですけれども、このままでは生き物はどんどん減っていく。同時に、生き物が減るというこ

とは、その次に何が起こるかという、人間の命も減るに違いないということと連動しているのです。そういうわけで、生物というのは多様な生物が地球に共存していることが大事なことであって、生物と同時に人間が共存し、生物の中にも動物というものと植物というものが共存している。生物が生きていくためには植物というものが必要で、この円山動物園は地面が見えていますけれども、すぐ隣は円山という原生林なのです。その原生林の延長であった地域を、木を刈り取って、今そこに動物を入れているわけですが、原生林というものをもとに戻した形の自然の中に動物がいるという方が、より自然なのではないかというふうに考えるところから、生物多様性という問題を今度は動物園のプロジェクトに重ね合わせていくというところがあるわけです。

そういう意味では、特に北方ゾーンと、この絵で言いますと北海道（北方圏ゾーン）というのがありますが、もう少し北海道の自然というものを復元した形の中での動物の展示といったら変ですけれども、動物をそこにすまわせることが必要なのではないかなというふうに思います。

例えば、この前、スウェーデンのノルデンスアークという動物園に行ってきました。学会のときに立ち寄ったのですが、そこでは本当に生物多様性の確保のための努力というものをしてPRしているのです。私どもは、キツツキが、アカゲラがどんどん減ってきている、それはなぜか、その原因を突きとめた、それは、アカゲラがすむ樹木が減っているからだ、それに対する寄附を申し受ける、それによってアカゲラという生物の復元を図りたいと。動物園がそういう主張をびしびしやっているわけです。きれいなパンフレットをつくっているのです。私は、やはり、動物園もそれくらいの行動をやるべきだというふうに思うのです。見せるだけでなしに、復元のための行動を起こそうというのが二つ目の確保に向けた行動ということなのです。これも、動物園本来のミッションということでは、社会に訴求することが今求められているのではないかということで、改めて動物園の任務といったものをみんなに知ってもらうことが大事ではないかと、これが二つ目です。

それから、三つ目は、動物園というものは世界中にたくさんありますけれども、それぞれ囲いの中の環境を人工的に作り出しているだけなのですね。私は、もっと広げて、周りのエリアと共存した動物園のあり方を見せるべきなのではないか。隣にある原始林と動物園は、ちょっと前までは原始林だったのだということを知ってもらわないといけないということです。それから、大倉山シャンツェがありますけれども、ジャンプ台も同じ動物園とつながっている地域の一環なのです。円山公園もありますけれども、お花見をするのと同時に動物に触れて帰ってもらう、そういうエリア一体としての動物との触れ合いを展開してはどうか。この三つが新しい動物園への方向性ではないかということを実は主張しているわけです。

そこで、具体的に何をやるのかについては構想報告書では触れていないので、具体的にこういうことをやりましょうということ、この動物園会議で議論しながら、これから事業として実施していく内容を少しコントロールできるのではないかなということが私が考

えている市民動物園会議に対する期待なのです。

ちょっと一方的に申し上げましたが、私はこのように考えています。そういう意味で、それぞれご参加の委員方はそれぞれのお立場でこの動物園会議をこのようにやっていきたいというふうなご意見をいただければ非常にありがたいと思いますが、いかがでしょうか。

○井上委員 アニマルファミリー制度ということで先ほどからいろいろなご意見が出ていましたが、この制度自体は、すごくいろいろ考えられていて、よい制度だなと思うのです。ただ、やはり、この制度をやることで一体どういうメリットといいますか、先ほど原田委員長からご説明がありましたように、例えば、こういう種については非常に減少していて、そのためにはこういう保護活動をしていかなければいけないとか、何かこれをやることでのメリットをまず考えなければいけないと思います。

それから、市民の方々からお金をいただくことになりますので、先ほど委員長の方から3,000円ぐらいというお話がありましたけれども、金額についても1口幾らぐらいにするかというのは一度議論をした方がいいなと思います。というのは、今、景気状況も思わしくない昨今ですから、1口の値段をどのぐらいに置くかということも、当然、慎重に考える必要があるというふうに思います。

あと、一つだけ、資料5で、昨年度、今年度ということで報告と予定というものを見せていただいたのですが、一つ気になったことといたしまして、内容を見ますと、非常に失礼な言い方ですけれども、どう考えても動物園と直接に関係ないのではないかというイベントもございます。具体的に言いますと、上から3番目のKIDS ZOOです。親はカフェやネイルを、子どもは絵本の読み聞かせやクイズラリーを楽しむ子育て支援イベントと。これは、たしかニュースかマスコミ等に取り上げられた記憶があるのですが、基本理念として人と動物と環境の絆をつくる動物園ということで、やはり人と動物の触れ合いという場が動物園だと思うのです。このイベントですと、子どもが絵本の読み聞かせやクイズラリーというのは、子どもと親は全く別のことをやっていて、しかも、親はカフェやネイルですから動物園とはほとんど関係ないことをやっているという状況です。これは、ほかの企業とか団体と共催のイベントらしいのですが、これが動物園の行事として適切かどうかと言われると、私個人としては疑問に思うところであります。

昨今、親と子の触れ合いの欠如ということを非常に言われているところで、人と動物、環境との触れ合いを大切にする動物園の中でやるイベントとしては、私としては、こういうことはちょっと考えた方がいいのではないかと。言葉は非常に悪いですが、ただイベントをやって入場者数をふやせばいいのかというふうにもとられかねないです。その辺は、私は基本理念という部分と乖離しているのではないかなと感じました。ちょっと厳しい言い方になりますけれども、こういったことについてはちょっと考える必要があるのではないかなと思いました。

以上です。

○原田委員長 動物園という環境をどういうふうを活用していけばいいのかということで、

こういうこともあるのではないかとというトライアルというふうに考えれば、昔から動物園は子どものためのと考えられていましたけれども、昨年のリスタート委員会では、子どものためだけではもう飽きられているのではないかと、親も行きたくないというふうに考えやすい、むしろ親も楽しめるような動物園があってもいいのではないかと、大人が楽しめる動物園というのは大いに意味のあることではないかとという意見が随分出ていたのです。その一環として、こういうようなアイデアがトライアルとして出されて、動物園という環境の新しい生かし方、具体のものにつながる可能性もなきにしもあらずであろうというふうに考えられるのではないかなと思うのです。一個一個これはどうだということよりも、やってみて、やはりそうではないよねとか、結構いけましたねということを見つけていくことも必要なのではないかと私は思います。

ほかに何かご意見ございますか。

須藤委員、いかがでしょうか。

○須藤委員 井上委員の補足みたいな形になりますけれども、アニマルファミリー制度の1口3,000円というのは、不況ということもありますが、子どもも参加できるような金額、自分のお小遣いから出せる範囲の金額の設定というのも、大人ばかりが参加するのではなくて、子どもも参加するというのがいいのではないかなと思います。

前にもお話ししたことがあります、モモンガのタロウちゃんにカボチャの種を持ってきてくださいというのがありました。うちの息子は、カボチャが嫌いですが、そのために頑張って食べていました。一生懸命に、モモンガのタロウちゃんに持っていくのだと集めているのです。そして、飛行訓練のときにご褒美に上げるあのカボチャの種は僕のかなという感じで見ているのですよ。じかにさわったりはできないけれども、感動体験をそこでしていると思うのです。ですから、アニマルファミリー制度を導入するに当たって、自分の金額とかえさがそこにちゃんと生かされているということが目に見えて、子どもでもわかるようにしていただけたら、もっと子どもが楽しんでいけるかなというのが母親としての意見です。

やはり、子どもが感動できるような展示方法とか体験がなかったら、大人も感動できないと思います。子どもが喜んでいることは、私自身も結構楽しいのです。こんなふうになっているのだとか、こんな表情をするのだ、目がこんなにかわいいとか、そういうのは共通していると思うので子どもの視点というのは大事かなと思います。

以上です。

○原田委員長 ありがとうございます。

まさにそういうことだと思いますね。

ほかにいかがでしょうか。

森田委員はいかがですか。

○森田委員 私は、今、皆さんのお話を聞いていて、三つの柱の中の真ん中の部分、希少動物に注目したら良いと思います。札幌の中でも円山原始林がすぐそばにあるというのは、

全国の動物園の中でも珍しく、動物を見に行こうという普通の動物園とは違うことができるという可能性がすごくあると思います。札幌市民もそうですが、観光客の方たちも、ここでしか見られない動物や植物が、北海道または札幌に来ると気軽に見ることができ触れられる、そういう可能性がすごくあるのではないかと思います。

先ほどもどなたかおっしゃっていましたが、子どものための動物園ということではなく、大人の方もそうですし、外国人の方も今は結構いらっしゃっていますので、本当にそういう方たちも来られる場所になると思います。ただ動物を見るための動物園ということではなく、この特色は円山動物園だからこそできることではないかなというふうに思っていました。

○原田委員長 ありがとうございます。

確かに、動物園は、熱帯動物館ですか、寒いところではそういう動物を見たことがないだろうからという発想で、いろいろな動物園は日本の気候に合わない動物を集めて、それを見せるというような観点で見せる動物園は結構多いわけです。

しかし、北海道に住む子どもたちにとってみれば、北海道の動物は何だろうということがきちんとわかっていなければと。私は、この前、ぱつと水の中に飛び込む鳥を見て、カワセミだと言ったのですね。そうしたら、そこに住んでいる小さな子が、あれはヤマセミだよと言ってくれたのですよ。すごいなと思ったのですね。物すごく早いですから、よくわからないのですけれども、ここら辺にすんでいるのはカワセミではないよということを見せてくれるのです。

動物園が一つ一つの生物に対してそれを教えられるようなことをやってくれていると、札幌の子は違うとか、あるいは、よそから来た人たちが北海道の札幌ではこんなことを教わっているよみたいなことを感じて帰るのではないかなと思います。私は、北海道には北海道の動物がいるということを細かく教えていく必要があるなというふうに思うのです。そういう意味では、貴重な環境と、貴重な生物が生息しているわけですから、そんなに有名な、あるいは希少な動物ではないかもしれないけれども、きちんと動物園が教えていく、生態を教え込んでいくことは必要なのではないかなと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○林委員 何度も申していますが、きょうは、アニマルファミリー制度とか、今の生物多様性の考え方とか、委員長のお話も貴重ないいお話だと思いますけれども、要するに、円山動物園は、今、以前に比べて百二十何万人から60万人で、ことしは実は7%も下がっているということ言えば、経営的にも大変だということがある。だけど、すばらしい施設とすばらしい飼育員がいて、その人的なコンテンツ、先ほどおっしゃった動物のことを興味深く教えてくれるという意味でも個々には非常にすばらしい能力を持っているのだと、はっきり言えば北海道の中ではトップなのですね。そういうことというのは、ますますメディアに打ち出していかなければいけませんし、ここはメディアの役割だと思うのです。

ただ、僕がなぜアニマルファミリー制度にこだわっているかということ、お金に困ってい

ることがまず表現できます。困っているとはっきりは言いたくないかもしれないけれども、多少困っている。同時に、例えば家族と一緒に遊ぶためにお金を出す、けど、もう一つは生物多様性のためにもお金を出す、つまりそのことによってこの三つの柱が全部入るのだという説明の方がいいと思います。

僕なんかは、これを見てどうしようかと思うのだけれども、アニマルファミリー制度は、3,000円なのか、1,000円なのか、500円なのか、さまざま出したい人がいるけれども、そのお金を出すことによっていろいろなことができる、円山動物園を応援するということは、例えば生物の多様性、円山の森を戻すことになるのだというふうになったら、全国でファミリー制度をやっているところがたくさんありますけれども、僕はほかとは違うと思うのですね。全国のファミリー制度は、どちらかというと、ファミリーで、家族で来てもらってという話ですけども、もっともっと三つの構想を結びつけてもいいのではないかと僕は思うのです。そうすると、変わってくると思うのですよ。オオカミの森や北海道のものをつくる、そのためにもみんなが一緒になって。だから、それは1回出したら終わりではなくて、毎年参加することで自分たちが自分たちの動物園をつくっているのだという感覚にもなったとしたら、僕はやはり札幌市民であることに胸を張れると思うのです。

なぜかという、自分たちが自分たちでつくったのだという意識をつくるということは大変なことかもしれないけれども、実は全国にそんなにないのです。世界にもそんなにないのですよ。その可能性は、この円山動物園には条件的に非常にあるのではないかなと思うのです。まちに近い、原始林がそばにある、すばらしい飼育員がいる、あとは、ちょっと昔のレトロっぽい古さを愛することができたらもう十分いいと思います。そこに、新しく近代的な施設を建てて、テーマパークのようにばんばんやりましょうという考え方よりは、はるかに価値があります。そのためにもやりましょうと。テーマパークだったら、お金を出した、そのかわりに、この恩恵はだれにもやらないよ、自分たちがもうけますよと。そういうこととは違うわけです。何を返していくかというのは、園では常に考えていると思うのですけれども、それは、先ほど委員長がおっしゃったように、飼育員がとても優秀な人たちですから、そういうところで返していけるわけです。個性的な爬虫類の本田さんとか、ホームページを見るだけで人生を学ばせてくれるような方がいます。そういう人たちがどんどん出てくれば、本当に3,000円分なのか1,000円分なのかわかりませんが、十分返していけるのかなと思います。

それから、さっきのモモンガの話もいい話だと思うのですけれども、僕は、子どもたちにも、出資しているのだ、投資しているのだと。お金の使い方というのは、今、何に使っているのかわからないのがあるけれども、こうやって使っていることがこうやって返ってくるのだということを見せてやるのも円山動物園の仕事だとしたら、とてもすてきなことだと僕は思うのです。

○原田委員長 ありがとうございます。

お金を出すからには、やはりこういうワッペンなりを張ってほしいのですね。500円でも寄附したら、やはりワッペンを1個張ってほしいわけですよ。

富山で、ライトレールという新しい市電ができたのですが、低床式のすばらしい市電なのです。新しい路線をつくって、車いすで段差なしで乗り込めるというすばらしい発想の市電なのです。それは、進んでしまった都市のドーナツ化現象を阻止するために、もう一度人を集めようということで、だんごとくしというコンセプトなのです。だんごというのは駅の周りの徒歩地域圏内です。そのだんごを幾つかくし刺しにしてめぐらせて都市の再生を図ろうと考えたのです。

そして、そこもお金がないので、ベンチにみんなワッペンを張ってあるわけです。そして、こういうまちにしたいみたいなのというコメントと名前がついたワッペンが1個ずつベンチに張ってあるわけです。これはすごいなと。これはおれのベンチだと言えるわけですね。どうぞ座ってくれと言っているような、そこまできちんと、この人が支えているのだ、この人がサポートしているのだ、この人がつくっているのだというような市民の主張を、おれらの手づくりだよというところを、何かの記号で公開するようなことも必要なのではないかなと思うわけです。

例えば、スウェーデンの動物園なんかも、ボルボの大きな四角いワッペンが張ってあります。それはどこに張ってあるかという馬なものです。わかるでしょうという感じで説明員が言って、わかる、わかるという感じなのです。オオカミならオオカミがいるところにもそういうワッペンが張ってあって、この鳥はというところにもワッペンが張ってあって、寄附者は幾つかのいろいろな企業であり、それから個人であり、金額によってワッペンの大きさが違うのですが、動物の解説をしているパネルのところにワッペンが張ってあって、みんなの目に触れるようになっていくのです。あれなんかも、こうやって市民がみんなで助けているのだということが伝わってきて、生き物を見るのと同時に、これだけの人たちが支えているのだな、やはりすごいなという感じがびんびん伝わってきます。

やはり、そういうことによって、この円山動物園が市民によってつくられていく、市民によって支えられている、そういうことを動物園みずからが主張していくことが必要なのではないかという気がいたします。

ほかに何か、あと2分ぐらいなのでそろそろ閉めようかと思いますが、いかがでしょうか。

○服部委員 きょうは第1回目ということなので、具体的に取り組むことについてはなかなか難しい時間だったと思うのです。しかし、今はもう先行取り組み期間ということで、2007年度、平成19年度に入ってこの動物園市民会議がスタートしたわけです。そういった意味では、先行取り組み期間の目玉というのでしょうか、概要をいち早くやはり打ち出さなければいけないと思います。

もう一つは、先ほど来、私も言っているとおり、いかに財政が困難であるかということをもう少しアピールすべきだろうと思います。累積赤字がしっかりと存在していますよ

はなくて、これこれだけの金額が赤字なのですよということをこの市民会議の中でももっと具体的に出すべきだと思います。

財政を健全化するためにどうしたらいいか、そのためには魅力ある動物園にしよう、そして、市民に愛される動物園にしよう、その結果がわたしの動物園という取り組みになったわけでございます。そこで、先行取り組み期間としては、その中で何をすべきかということを確認に早急に打ち出しできるようにしていただきたいな、そのための提案を述べていきたいというふうに思います。

○原田委員長 ありがとうございます。

それでは、ちょっと園内視察の時間をディスカッションに回してしまいましたけれども、これで本日の動物園会議を閉めたいと思います。

次回については、どのようなことになっておりますでしょうか。

○金澤園長 次回は、私どもで考えている会議は、基本的に3カ月に1回ぐらいのイメージを持っています。今、皆さんにご議論いただいているのは、基本構想の焼き直しというか、検討をしたり、さらにというところも含まれていきますと、ちょっときついなという気がしますけれども、大体3カ月に1回ぐらいのペースを見込んでいます。次回は11月、12月ぐらいをイメージしています。そして、今年度の最後は、3月中過ぎぐらいをイメージしています。もし差し支えなければ、今の時点で皆さんのご都合が聞ければ、次の11月、12月のときだけでも決めていただけるとすごくありがたいです。もしきついなということであれば、後ほど私どもで日程調整をさせていただきたいと思います。

今のところ、11月28日ぐらいがいいかなという私の勝手な日にちを入れてあります。ちょうどきょうが8月30日なので、3カ月後というイメージです。

[ 日程調整は記載省略 ]

○金澤園長 それでは、後ほどメールなどでまた確認させていただきます。28日、29日前後で整理させていただきたいと思います。3カ月に1回ぐらいのペースは何とか守っていきなと思っております。

○原田委員長 それでは、改めて動物園の方からご連絡いただくことにさせていただきます。

## 5. 閉 会

○原田委員長 それでは、これで閉めたいと思います。

視察の方は、もう無理ですか。

○金澤園長 それでは、最短のコースで入れる仕掛けを考えますので、もし視察される方がおられましたら、出てテレビ画面のあるところにおいていただければと思います。熱帯動物館の裏側の方へちょっと入っていきなと思ってます。まだ動物が中に入っていない

ので、さく越しで見ていただきたいと思います。

○原田委員長 それでは、時間のある委員はちょっとお残りいただいてということで、これで本日の市民動物園会議をお開きにさせていただきます。

どうもありがとうございました。

以 上